

科目名	単位数(時間数)	開講時期	担当講師	実務経験
看護管理と研究	1単位(30)	3年次 4月	外部講師	あり(看護師)
			専任教員	あり(看護師)

科目目標:

- 1 看護管理についての基礎的知識を習得し、組織の中での看護師の役割を理解する。
- 2 看護研究の意義と方法を理解し、実践した看護の意味を振り返る。

授業回数	授業計画	授業方法	講師
1回 2回 3回	1 看護管理 (1)看護管理の定義 (2)看護管理の対象と管理過程 (3)看護専門職の役割 2 病院における看護組織 (1)病院の目的、理念と組織 (2)看護部門の組織と看護職員の管理 (3)診療報酬制度と看護サービスの評価 (4)院内委員会と看護の役割 (5)看護の質保証 (6)看護行政 (7)感染予防 (8)事故発生時の対応と事故の記録 (9)電子カルテとセキュリティ	講義	外部講師
4回 5回 6回 7回	1 研究とは (1)研究の意義・必要性・種類 2 看護における研究 (1)看護における研究の意義 (2)看護研究のプロセス	講義	専任教員
8回 9回 10回 11回 12回 13回 14回	1 ケース・スタディとは 2 論文のまとめ方 (1)論文の読み方 (2)論文の書き方 (3)論文作成上の留意点 (4)論文(ケース・スタディ)の書き方 (5)抄録の書き方 3 発表の方法 (1)発表の仕方 (2)発表原稿の書き方 (3)資料作成の仕方 4 論文(ケース・スタディ)の作成 (1)テーマの決定 (2)文献検索 (3)論文の作成 (4)抄録の作成 (5)発表原稿の作成	講義 演習	専任教員
15回	修了認定試験:100点 60点以上を合格とする。(修了認定等に関する規定第4条参照)	筆記試験(1h)	
使用テキスト	新体系看護学全書別巻 看護管理・看護研究・看護制度 メヂカルフレンド社 看護における研究 日本看護協会出版会 わかりやすいケーススタディの進め方 照林社		

科目名	単位数(時間数)	開講時期	担当講師	実務経験
災害看護	1単位(15)	3年次 10月	外部講師	あり(看護師)
			専任教員	あり(看護師)

科目目標: 1 国際社会での諸外国との協力について考える。
 2 災害医療・災害看護に関する基礎的知識・技術を習得する。
 3 災害時の応急処置の方法を理解する。

授業回数	授業計画	授業方法	講師
1回 2回	1 保健医療の国際協力 (1)看護のグローバル化 (2)多文化看護 (3)看護の国際協力	講義	専任教員
3回	1 災害と災害医療 2 災害医療サイクル 3 災害の種類と被害の特徴 4 災害と看護の役割 5 災害対策 (1)災害に関する法律や制度 (2)情報伝達体制 (3)災害関係機関の支援体制 (4)個人・地域の備え 6 災害種別の疾患の特徴 7 被災者及び援助者の心理とケア (心理回復プロセス・PTSR・ASD・PTSD)	講義	外部講師
4回	8 災害各期の看護 (1)急性期 (2)亜急性期 (3)慢性期 (4)静穏期 (5)準備期		
5回	9 活動の場に応じた看護 (1)被災現場 (2)救護所 (3)避難所 (4)仮設住宅・復興住宅 (5)医療機関 10 感染症予防対策 11 他職種との連携・社会資源		
6回 7回	12 災害時に必要な技術 (1)トリアージ ①机上シミュレーション ②模擬患者を使ったトリアージ訓練 (2)搬送と被災者への対応 13 災害訓練の意義	講義 校内実習	外部講師 専任教員
8回	修了認定試験:筆記試験100点 60点以上を合格とする。(修了認定等に関する規定第4条参照)	筆記試験(1h) 自己学習時間(1h)	
使用テキスト	災害看護学・国際看護学 医学書院 看護の統合と実践①看護実践マネジメント/医療安全 メヂカルフレンド社		

科目名	単位数(時間数)	開講時期	担当講師	実務経験
診療の補助技術における安全	1単位(30)	3年次4月	外部講師	あり(医師)
			専任教員	あり(看護師)

科目目標

- 1 医療システム中の危険要因を知り、診療補助技術における事故防止の為に知識・技術を習得する。
- 2 ハイリスク環境下で、安全な看護を提供するための判断力・実践力を高める。
- 3 実践に即した技術演習を通して、専門職としての責任感と倫理観を身につける。

授業回数	授業計画	授業方法	講師
1回 2回	1 医療安全を学ぶ意義 2 事故防止の考え方 (1)医療事故・看護事故の構造 (2)医療安全とコミュニケーション	講義	専任教員
3回	3 安全で確実な点滴静脈内注射の実施 4 輸液ポンプ・シリンジポンプの取扱い (1)輸液セット・三方活栓の接続 (2)輸液ポンプ・シリンジポンプの設定 5 ポンプ使用中のトラブルと対処 (1)アラームの対処方法 (2)薬液量の間違い等 6 作用副作用の観察と記録・報告		
4回 5回	7 輸液ポンプ・シリンジポンプの取扱い(三方活栓からの側管注入)		
6回 7回 8回	8 注射業務プロセスからみた事故防止 9 薬剤の特性と事故防止 10 ハイリスク状況における安全な点滴静脈内注射 (1)読みにくい処方箋 (2)点滴準備中の作業中断 (3)輸液ポンプのアラーム (4)タイムプレッシャー 11 事故発生時の対処	講義	専任教員
9回 10回	12 ハイリスク状況での輸液管理	校内実習	専任教員 外部講師
11回	13 チューブ・ドレーンの種類と 14 チューブ類挿入中の主なトラブルと対処 (1)外れ (2)閉塞 (3)抜去 (4)切断 (5)不適切な圧力 15 輸血・救急時の事故防止 16 救急カートの薬品・機材 17 検査に伴う事故防止	講義	専任教員
12回	18 安全で確実な採血 19 医療廃棄物の取扱い 20 針刺し事故防止 21 事故発生時の対処行動	講義	専任教員
13回 14回	22 学生同士での採血の実施(医師立ち会いの元に実施)	校内実習	外部講師 専任教員
15回	修了認定試験:筆記試験100点 60点以上を合格とする。(修了認定等に関する規定第4条参照)	筆記試験(1h) 自己学習時間(1h)	
使用テキスト	医療安全ワークブック 医学書院 看護の統合と実践①看護実践マネジメント/医療安全 メヂカルフレンド社		

科目名	単位数(時間数)	開講時期	担当講師	実務経験
臨床看護の実践	1単位(15)	3年次 7月	外部講師	—
			専任教員	あり(看護師)

科目目標:

- 1 臨床に近い状況下で複数の患者への看護を通して、総合的な判断や対応をする力を養う。
- 2 看護技術を組み合わせて、複数患者の状態や状況に合った援助を実施する。

授業回数	授業計画	授業方法	講師
1回 2回 3回	1 演習の目的 2 演習の進め方 3 二人の患者の援助計画の立案 (1)患者の病状や自立度 (2)時間配分や優先度 (3)援助の効率性 (4)安全・安楽の確保	講義	専任教員
4回 5回 6回 7回	4 二人の患者への援助の実施 (1)患者の病状や自立度 (2)時間配分や優先度 (3)援助の効率性 (4)安全・安楽の確保 5 突発的な状況 (1)予期しない患者の反応 (2)突発的な事態 (3)時間の切迫 6 自己の実践能力に応じた対処方法の判断と行動 (1)事象の危険性, 緊急性 (2)患者の苦痛への配慮 (3)自己の実践能力の見極め (4)適切な人への応援要請 7 評価・修正 (1)計画の妥当性 (2)突発的状況の対応	講義・演習 校内実習	専任教員
8回	修了認定試験:筆記試験100点 60点以上を合格とする。(修了認定等に関する規定第4条参照)	筆記試験(1h)	
使用テキスト	看護の統合と実践①看護実践マネジメント/医療安全 メヂカルフレンド社		